

|            |   |      |           |
|------------|---|------|-----------|
| 年 度        | 2022度（令和4年度）  |      |           |
| 科 目        | 電気実習 C  |      |           |
| 担 当        | ○土屋俊雄 池田勝亮 上村且良   | 使用教室 | 11教室・12教室 |
| 実務経験       | 土屋：(株) ジーエス・ユアサにて地下鉄工事の現場代理人・電気機器設計を担当・電気技術教育に活かす。<br>池田：自営による電気・通信設備の設計施工業務に従事<br>上村：サンケン電設（株）の工事経験、メンテナンス作業経験   |      |           |
| 種 別        | ✓前期 ・ 後期 ・ 通年   |      |           |
| 到達目標       | 電気工作物の基礎工事ができ、接地抵抗や基本特性の測定に加えて、金属管工事やケーブル工事の適切な施工が行える。  |      |           |
| 資 格<br>実施月 | 令和4年6月  |      |           |
| 評価方法       | 定期試験(中間・期末)70%程度とその他（実技課題・実習報告書等）30%程度で総合的に評価する。  |      |           |
| 教科書等       | 電気工事士教科書<br>第二種電気工事らくらく学べる  |      |           |
| 授業計画       | <p>電気工事士国家試験の公表問題や各種施工方法の複線図作成・ボード取り付け実習・通電検査・評価などを通じた、各種の電気設備施工技術の習得と、電気保安のための計測技術の実際を学ぶ。</p> <p>第1週から第2週<br/>ケーブル工事とダクト工事</p> <p>第3週から第4週<br/>金属管の切断・曲げ加工、スイッチボックス等組立て・造営材取付け</p> <p>第5週から第6週<br/>実習金属管工事と合成樹脂管工事・線び工事</p> <p>第7週から第8週<br/>碍子引き工事・バインド掛け・分岐・引き込み口、貫通部工事</p> <p>第9週から第10週<br/>シーケンス制御と PLC</p> <p>第10週から第12週<br/>その他の建築設備の概要と施工実例</p> <p>第13週から第15週<br/>接地工事および電圧電流電力の測定、絶縁抵抗測定</p> <p>第16週から第18週<br/>一般電気工作物の保安に関する法律による測定とデータの評価</p> <p>第19週から第20週<br/>これまで学んだ内容の演習と実習課題の作成</p> <p>その他<br/>授業の中で、実際の電気設備等の見学を実地学習として織り交ぜて効果的な理解を促す。<br/>必要に応じて、基礎を復習し理解を深めるための電気工学実験を織り交ぜた実習を行う。</p> |      |           |